

にほしま

<https://hawaiiiniho.com>

kawasakil885@yahoo.co.jp



ハワイ盆ダンス紀行

－ 盆ダンスにみるコミュニティの結束 －



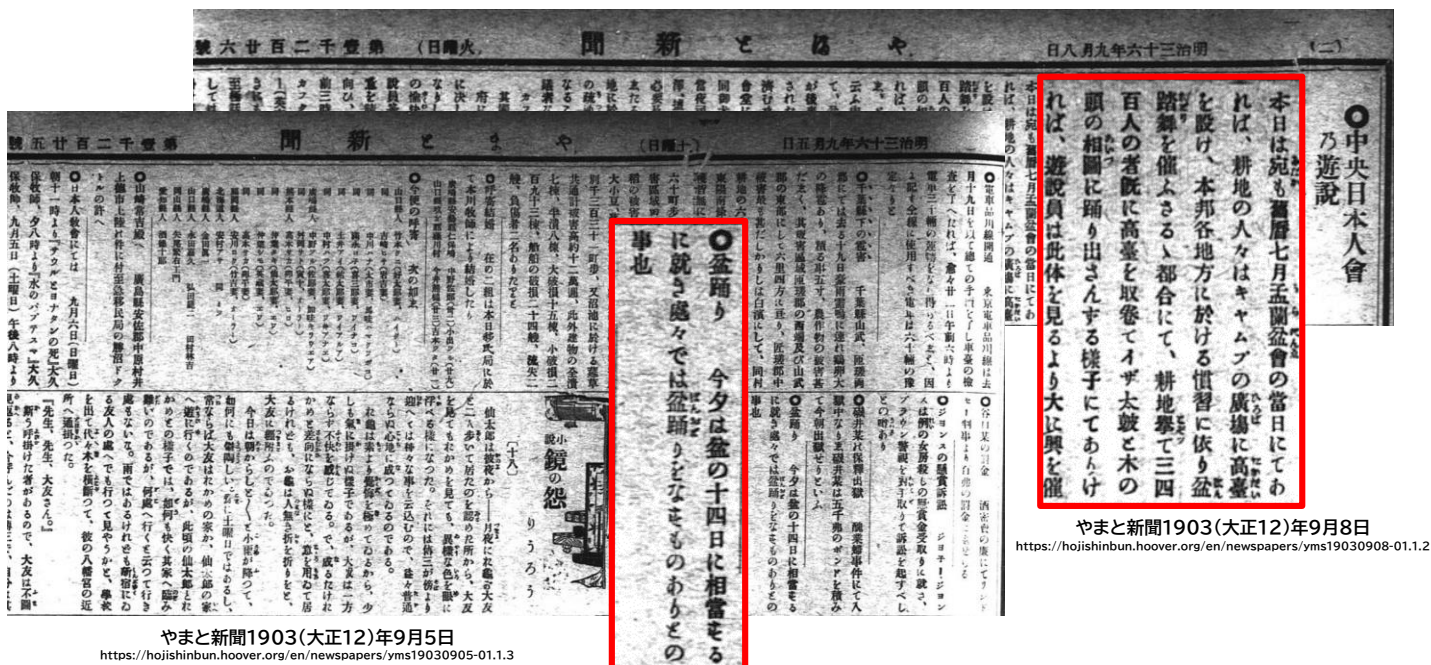
ハワイ島コナ大福寺(曹洞宗)

ハワイの年中行事

ハワイに渡った日本文化がローカル化したものは多数あるが、中でも「盆踊り」は「盆ダンス(Bon Dance)」と呼ばれて特に親しまれている。宗教宗派、人種の垣根を越えて地域のお祭り化していると行事が土着化し受け継がれさらに深化していることがわかる。

ハワイでの盆踊りは、砂糖きびプランテーションの日本人労働者のあいだで、同じ出身地域を背景に、移民たちが故郷の盆踊りを懐かしんで、踊りはじめたものである。その後、19世紀末に仏教寺院が正式開教したことで、盂蘭盆会と盆踊りが同時に開催されるようになった。やがて、都市部へと基盤を移したことで、同郷のつながりを越えて、同じ国の者という連帯感と結びついた。

1903年9月5日の『やまと新聞』によれば「盆踊り 今夕は盆の十四日に相当たるにつき處々では盆踊りをなすものあり」とあり、これがハワイの邦字新聞の初出である。同年9月8日には「本日は宛も舊暦七月盂蘭盆會の當日にてあれば、耕地の人々はキャンプの廣場に高臺を設け、本邦各地方に於ける慣習に依り盆踊舞を催ふさるゝ都合にて、耕地擧つて三四百人の者すでに高臺を取巻いてイザ太鼓と木の頭の合図に踊りださん」と日本各地から来た移民たちが一堂に会し、踊りに興じる様子が窺える。



やまと新聞1903(大正12)年9月8日
<https://hojishinbun.hoover.org/en/newspapers/yms19030908-01.1.2>

以来長い年月を経て、踊りの曲目もミックスされ、様々な地域の出身者が一緒に楽しむことが出来る、現在の形へと移り変わってきた。現在のハワイでは、主要6島(カウアイ・オアフ・マウイ・ラナイ・モロカイ・ハワイ各島)のすべてで、毎年約150回もの盆ダンスが開催される。ハワイ全土の寺院を中心に行われ、さらに2015年からハワイ島ヒロ大神宮でも、「夏祭り及び奉納盆踊り大会」を開催している。

6月から9月上旬にかけての、週末には、必ずどこかで盆ダンスが開催されている。そうした現実をみると、盆ダンスが、寺社のメンバーに限らず、多くのハワイの人々の間に根付き、愛されているかがわかる。長い期間にわたって開催される背景には、日程調整をはかり多くの人たちが色々な会場に足を運べるようにという工夫がある。近年は、日本人観光客の参加者も増加しており、賑わいが一層増している。

盆ダンスの曲目は、
 民謡音頭 東京音頭・炭坑節・八木節・常磐炭坑節・大新潟音頭
 現代音頭 21世紀音頭・ビューティフル・サンデー・ポケモン音頭・マツケンサンバ
 仏教音頭 大師音頭・親鸞音頭
 ハワイ・オリジナル音頭 ハワイ音頭・アロハ音頭・ホレホレ音頭
 等々、バラエティに富んでいる。

カウアイ島8ヶ寺共通の曲目の実例は、次のとおりである。

炭坑節・日本太鼓・ズンパ音頭・花の盆踊り・幸せサンバ・青空音頭・ビューティフル・サンデー・福島盆歌・安里屋ユンタ・遊び庭・あしびな・さくら音頭・幸せ音頭・ご機嫌ソング・平成音頭・河内おとこ節・ふるさと音頭・花の手拍子踊り

カウアイ島では金曜・土曜の2日間行われ、その開始は19時30分に統一されている。曲目も共通なので、全ての会場で楽しむことが出来る仕組みになっている。

様々な地域の踊り曲や現代の曲が用いられるのは、各人の先祖の出身地域を懐かしみつつ、多様な人々がそれぞれ楽しめるように、配慮されていることである。沖縄の安里屋ユンタなどのエイサーと呼ばれる沖縄の盆踊り曲や福島音頭が特に地域性を表しているものなので、出身者やその子孫たちの盛り上がりの一助になっている。その中でも特に田中星児が歌う日本語のビューティフル・サンデーは、全ての参加者に好まれている。沖縄県系人が多い慈光園本願寺ではエイサーが中心であったり、ヒロ大神宮では、郡上踊りが数曲入っていたりするなど、特色を生かしているところもある。

カウアイ島ワイメア真言寺の盆ダンス当日のスケジュールを見てみると、18時に屋台が開店し、18時30分から本堂で、写真1にみるように、平尾光徳開教師による初盆法要及び施餓鬼法要が行われる。本堂での法要が終わると、檜の上での平尾師による開会の挨拶と読経が行われる。こうした功德(くどく)を、会場に集う全ての参加者に廻し(めぐらし)向けて、その幸せと安楽を願うことこそが、盆ダンスで最も重要な点である。



写真1-カウアイ島ワイメア真言寺(高野山真言宗)



写真2-カウアイ島ワイメア真言寺(高野山真言宗)

いよいよ踊りが始まると、一曲目の「炭坑節」で、参加者が浴衣や法被を着て踊っている様子(写真2)である。辺りが暗くなるころには踊りの輪はさらに大きくなり、平尾師も踊りに加わり、多くの参加者との交流を深める。たくさんの参加者が集まり、輪になって踊るため、祭りの後には、芝生に円形のあとが付くほどである。

会場での楽しみは、踊りはもちろんのこと、屋台の出店にもある。屋台の出店具合で、行事自体の人気の良否が分かれると言われている。屋台の売り上げは青年会や婦人会の活動資金になるので、メンバーは販売に力が入る。ワイメア真言寺の屋台は、カウアイ島名物のフライング・ソーサーと呼ばれる円形のパンにミートソースの様なソースを挟み焼いたものや、ポーク弁当・焼き鳥・むすび・ぼたもち・沢庵・なます・かき氷・といった日本の食文化、沖縄県系人によるアンダギー、ドイツ人移民がもたらしたスウェーデン発祥のソーセージを用いたゴテボルグむすび、フィリピン料理のバナナルンピアと呼ばれる春巻き、アメリカ文化のチョコレート/ストロベリーケーキ、ハワイの食文化であるバナナなどが販売されている。屋台のメニューを見ても、ハワイにおける文化の多様性が現れており様々な文化が継承されている証をみることが出来る。

ハワイでは、盆踊りの本来の趣旨や目的を堅持しながら、仏教徒・氏子の別なく、コミュニティの年中行事として盆ダンスが機能しており、様々な人たちが参加している。写真3、4は、ハワイ島パホアにあるYBA会館の様子で、ネイティブ・ハワイアンにルーツを持つ人や警察官も一緒に踊っている。盆ダンスでは、様々な宗派、世代、人種の人たちが一緒になって踊っている多様性が見られ、ハワイの社会の縮図と言える。



写真3 ハワイ島パホアYBA会館(プナ本願寺パホア支部)

写真4

ハワイの社会に密着した年中行事である盆ダンスにおいて、そのことを端的に表しているのが、雨天決行の心意気ではないか。ハワイの盆ダンスは、予定が詰まっていることもあり、雨天順延が出来ない。プナ本願寺の富岡智史開教使によれば、「台風や嵐が前もって来ていれば、中止にすることもあるが、ほとんどの場合は開催する」、という。それだけに、メンバーや地域住民は、参加する盆ダンスを生活の中に組み入れた行事として、予定を立てているのである。

仏教徒に限らず、盆ダンスに集う多くの人々が、開教使や宮司といった宗教関係者と一緒に踊り、その時間を共有することで、親近感が増しさらなる一体感が生まれる。ハワイでは、お盆の宗教行事として盆ダンス文化は継承されており、アクティブに活動し続ける団体によって深化を続けているのである。

パハラ本願寺の盆ダンスは、2016年に12年ぶりに復活した。パハラ地区は、ハワイ島南部のカウ地域に位置し、アメリカ合衆国最南端の地点であるサウスポイントがある。ヒロから約80km、カイルア・コナから約120km離れたこの地区は、目立った観光スポットはない。1990年代に、多くの農家が砂糖きびからコーヒーに転作すると、近年コナコーヒーに次ぐ名産地となり、一気に着目されはじめた。

こうした土地柄の移り変わりを受け、2回目となる2017年には地域住民はもちろんのこと、ヒロの住民など遠くからも、盆ダンスの参加を目的にパハラ本願寺に多くの人が集まった。法要が始まり、既述の富岡師(プナ本願寺と兼務)の読経に続き、富岡師のウクレレに合わせ、参加者が「Aloha Oe」や、「You are my Sunshine」を歌うなど積極的に信徒が参加する形の法要が行われた。これは、メンバーの減少が危惧される昨今の本派本願寺ハワイ教団において、若者を寺に呼び戻す取り組みの一つである。いよいよ待ちに待った盆ダンスが始まると、ダンスは17時から21時までの4時間開催された。

富岡師は自身の若い感覚を生かし、寺院の活性化に努めており盆ダンスにも積極的に参加し、参加者との交流を楽しんでいる。さらに、FacebookやInstagramといったSNSを活用し、情報発信を密に行うことにより若年層の宗教心向上に努めている。

盆ダンスを通じたコミュニティの結束

毎年夏に行われる盆ダンスは、県人会による繋がりや、広く日系人同士の連帯感や信頼関係の醸成に重要な役割を果たしてきた。そうした連帯感や信頼感が、地域住民との交流につながり、相互理解を助長した。

さらに、旅行社の企画もあって、日本人観光客によるハワイの日本文化の体験への欲求の高まりから、観光客が盆ダンスに参加するようになってきた。地域住民と一緒に踊りを体験することによって、行事そのものの活性化に拍車をかける。ハワイで育まれた日本文化に触れたことによって、帰国してからの日本人としての日本文化の再考が、日本における日本文化継承の要因になる。

ハワイの日系アメリカ人の彼らにとっては、日本からの移民に始まった彼らの先祖が保持し継承してきた生活文化を、地域の様々な文化を持つ人々と共有し、さらに日本人観光客もそこに加わり、1つの価値観を共有することになっているのではないかと。盆ダンスという行事を通じて多様な人々が共通の時間を過ごす事で、コミュニティの結束が強化され、文化を継承することの意義を再確認する手立てとなっている。



盆ダンスの開催
を知らせるサイン



ハワイ島本派本願寺ヒロ別院



カウアイ島ワイメア真言寺



ハワイ島ホノム本願寺



ハワイ島コナ大福寺

盆ダンスで供される軽食



内田真仁先生より当資料館に
寄贈された手拭いと映像



ハワイ島ホノム本願寺



ハワイ島ヒロ日蓮宗

寄稿・写真提供

内田真仁

関東学院大学 博士(文学)

